NIE実践報告

1．タイトル：放射能と原子力発電

2．学校名

伊那市立　高遠中学校

3．実践者名（代表者名）

間宮亜武呂（伊藤奨）

4．学年

1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・26人

6．単元（本時の学習課題）名

「これから日本は原子力発電をどうすべきだろう」

7．目標(狙い)

東日本大震災の記事から、「これから日本は原子力発電をどうすればよいか」自分の考えを持ち、友との話し合いを通してより多角的・多目的な視点から原子力発電の是非について判断することができる。

8．評価の視点

友の意見や新聞資料を参考に、より多目的・多角的な視点から学習問題に対する判断をしているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「放射能と原子力発電」　７時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①前時の自分の意見を振り返らせる。
②自分の同じ意見を持つ友、違う意見を持つ友と意見交換を行う。
③友の意見を参考にして、自分の考えを再度まとめ、全体で考えを発表し合う。
④単元を振り返り、今の考えていることをまとめる。
（留意点）
・自分の考えの根拠となる記事・資料を明記させ、学習カードに記入させる。
・話し合いの途中で立場が変わっても良いこととする。
・クラスとしての結論は出さず、政府の見解を紹介し、まとめとする。
・今起こっている事について、新聞などから情報を得て、自分なりに考えてみる大切さを伝え、まとめとする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

今まで学習してきた新聞資料を自分の考えの根拠として、活発に意見を交換し合った。話し合いを通して、立場が変わった生徒も、変わらなかった生徒もいたが、すべての生徒の考えに深まりが見られた。

12．成果と課題

成果は、生徒自身が「この学習で放射能や原子力発電について、知れてよかった」と学びの価値を見いだしていることである。また、「今後も知っていきたい」「自分にできることをやっていきたい」というように、今後も自分なりに考えていこうとする意欲を持てたということも成果である。これは、被災した人々へ思いを寄せ、この問題に対する使命感を生徒が感じたこと、さらに、難しい内容にも関わらず自分なりに調べ、考えを深めることができたという充実感を得ることができたからではないかと考える。この学習を支えたのは、今の生の状況を伝える新聞記事であり、新聞記事を使った学習の効果を強く感じることができた。